昭和62年10月 1 日発行

J.P.C

No.37

'87パーカッションフェスタ スペシャルクリニック

7月5日〜26日まで行われたパーカッションフェスタで開催された5つのクリニックと8月22日に行われた工藤義弘のクリニックの模様を取材しました。

マーティ・ブレイシー　7月5日　場所・プレイス24

「グルーブ・ドラミング」とタイトルがつけられたマーティのクリニックは「歌う」ことと「個性」を出すことを前面に打ち出した内容で、基礎的な内容は特に時間をかけずマーティ自身がセットや練習台を使って実演。

そして中心となった「歌う」「個性」とは「曲の流れをしっかりとつかみ、ドラミングもメロディーを表現していける。リズムもキープすることのみならず、自分だけのフレージングを考えることで、新しい音を作っていく」こと。そう「ノリ」をつかむことだそうです。

細かい内容は教則本として出版されていますので是非お買い上げ下さい。

今回はベースギターとの共演（写真）をしたり、2台のセットを使っての受講者参加ワンポイント・セッション等、2時間のクリニックはなごやかな雰囲気のなかで終わりました。

（元もんた&ブラザース・現在1986オメガトライブに参加。パール・サマー・スクールの講師として第一回より毎年活躍）

仙波清彦とその仲間たち　7月18日　場所・プレイス24

クリニックというよりは、ほとんどコンサートだった仙波清彦&おれかま軍団。リハーサルなしという青山純氏を加え総勢10人。並んだドラムセット7セット！（ソナー3セット、パール3セット、ヤマハ1セット）会場の半分を楽器で埋めてしまった彼らが繰り広げたのは、何と言えば良いのでしょう。ビリンバウ団あり、横笛あり、クラリネットあり…。スリットドラムを7台並べてイメージインプロヴィゼイションするかと思えば、伝統の祭ばやしが始まってしまう。最後は〝おれかま〟。7台のドラムセットとパーカッションセット1セット。1つのパターンを繰り返すうちに〝うねり〟を出しちゃおうというやつですが、結果はどうだったんでしょう。スタジオの床がグラグラ揺れてなかなかの体感クリニックでした。

今村三明　7月12日　場所・プレイス24

「ビギナーのためのパーカッション奏法」と題して行われたクリニック。文字どおり基礎を混えて各種楽器の奏法を楽しいお話と一緒に紹介してくれました。

まずは楽器を演奏する基礎となるスネアドラムの練習方法。ひとつ打ちから、力の抜き方から、4分音符、8分音符、3連符、16分音符のコーディネイションや恰好良いアクセントのつけ方、フラム打ちのコツ、2つ打ちの練習法、5つ打ち、9つ打ちと非常にわかり易く説明してくれました。

トライアングル、タンバリン、カスタネット、バスドラム、ティンパニー、シンバルと続き、その間参加者ひとりひとりに話しかけるように、そして全員が何かひとつ楽器をたたいてアドバイスを受けるという、非常になごやかでアットホームな雰囲気のクリニックでした。

（NHK交響楽団）

大内(マッド)貴雅　　7月26日　場所・コマキビル地下

会員の皆様にはギリギリでお知らせできたマッド大内さんのクリニックは、ドラムシティには珍しく、女性が多数参加してくれたのです。7月の4回目の雨の日曜（と言うことは全部雨だったんだ)、蒸し暑い日だったのですが、満席で始まり二時間をぶっ通しての熱演。

クリニックの内容は全体を通して基本を固めて毎日練習を重ねていくことの大切さを受講者に伝えようと声をからして必死のドラミング。ただドラムシティのクリニック受講者は静かすぎて、手にしたスティックを大内さんがポイントを話すごとにタカタカ動かして即、練習してしまうので、大内さんの方が、緊張してしまいいつものノリになりきれなかった様子。

「来日してくるドラマーはみんなルーディメントぐらいあっさりとできるほど練習しているんだから、みんなもルーディメントを少なくともマスターしてくれ」とマッドさんは、声を大にして言っていました。

工藤義弘　　8月22日　場所・プレイス24

「根性ドラムクリニック」と名付けられた今回はいつもは4時間かけてのクリニックを、1時間半にちぢめての高密度の内容。

スティックの持ち方から始まって、手首、ひじ、腕と使い方を細かく説明、ときにはスティックの回し方(?)やボードに書かれたウルトラセブンなど笑いをさそう工藤さんは軽いノリの関西弁でまくしたて最後には声をからしての大熱演。

ツアーのため、あのバスドラは使用されなかったが、是非コンサートに足を運んであの音を聞いてほしいと言っていました。

広い会場に鏡張りで明るく前から後からプレーを見ることが出来、工藤さんの動きが良くわかるクリニックで「今日、覚えたことを練習して次のクリニックのときはもっとうまくなっていろよ」と今回のしめでした。

受講者がドラムをたたく時間がなかったのは残念でしたが、最後のドラムソロはさすがに圧巻。しかも1時間後にはビデオでチェックをする研究心旺盛な工藤さんでした。

安部正隆トリオ　　7月19日　場所・コマキビル地下

前日から雨の中、30名の参加と会場は満席。

ジャズのクリニックということで内容を検討して実際にセッションを見て聞いてそして何かを皆さんに感じ取ってほしいとコンサート形式による初めての試みでした。

メンバーは　ドラムス・安部正隆
　　ベース・望月英明
　　ピアノ・永井隆夫

スタンダード・ナンバーの連続演奏で初めはとまどっていた参加者も曲目を重ねるごとに演奏にのめりこんでいく。静かで、そしてかすかな緊張を感じるなかで今回のクリニックは終了。演奏終了後の質問もあまりなく、クリニックというよりはライヴを楽しんで頂いたので、〝ライヴハウスへ足を運んでさらに何かをつかんで下さい〟とのお言葉でしめくくりでした。

ソナー・ローズウッドのセットを使用。現在、ライヴを中心に活動中

(アンセムのドラマーとしてこの夏も大忙しのマッドさん、部屋はかたづけた方がいいですよ)

(アース・シェイカーにて活躍中、連日のツアーのための予定変更。そのため参加できなかった会員も多かったはず)

第7回JPCサマーキャンプ

～Body Vibration Action1(ichi) Vol.7～

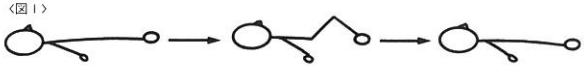
大好評のうちに、ついに７回目を迎えたJPCサマーキャンプは、もう顔染じみになった河口湖の民宿〝流石〟で開催された。参加人数17名。最年長は36才の〝大将〟と呼ばれたオジサン。チーフインストラクターは例年どおり東京芸術大学助教授の有賀誠門先生。サブインストラクターは、佼成ウィンドオーケストラの北野謙一先生とフリープレイヤーの藤本隆文先生。そして昨年このサマーキャンプのためにアンサンブル曲を作ってくれた渡辺加津子さんが今年もアレンジものをひっ下げてお手伝いをしてくれた。さらに注目のゲストは〝メビウス気流法〟の坪井香譲先生。今年はどんなカルチャーショックを受けるかナ。

第１日目（７月28日）

２時開始の予定が交通渋滞の影響で３時30分と１時間以上も遅れて開始された。

今年は〝名誉の傷〟の葡萄前進はなく、仰向けにネコロガルことから始まる。体を楽にして両足を揃え、膝を立てたり伸ばしたり。（図

〈図１〉



①床を擦りながら膝を立てる（交互に）
②①と同様に伸ばす。ペチャッとつかないように注意

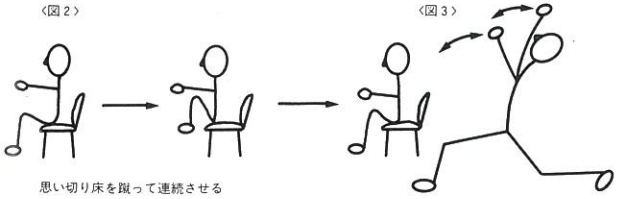
１）テンポやリズムを変えてみる。『歩く（走る）』という行為を床の上で感じることになる。もちろん少々極端ではあるが、膝がきちんと伸びる感覚、そして伸ばした時にベタッと音がしないようにするには腰でしっかり支えていなければならないことがはっきりわかる。次に立ち上がって同じことをやってみる。図１をそのまま90°起こせば良いのだが簡単には出来ないもの。でもとにかく腰をちゃんと据えていればそのうちどんなステップでも出来るようになってくる。もうひとつ注意することは、腰の他は体中リラックスするようにすること。

あっという間に日は暮れ、はっきり言って去年より美味しくなった夕食の後は自己紹介の時間。昨年から引き続き参加している人、仲間を求めてやって来た人、根源にたち返りたい人、ピアノ弾きの人、フルート吹きの人、高校生、浪人生、大学生、そして会計事務所勤務の人。今年も色んな顔ぶれが集まった。

第２日目（７月29日）

昨日に引き続き、腰にポイントを置いたレッスンから始まる。先ず、椅子に腰掛け、両足で思い切り床を蹴る。（図２）体の正面ばかりではなく、左前や右前でも蹴って振り子のように足を動かしてみる。これはまさしく美容体操。有賀式ストレッチのとどめは、櫓太鼓体操。文字通り、大きな櫓太鼓を叩くつもりで構え、空を叩く。（図

〈図２〉　〈図３〉



思い切り床を蹴って連続させる

３）腰をグッと下げることと、腕が前に下がらないように注意しなければ意味がない。本物の太鼓があればより効果的。

一汗かいたところでスネアドラムを出し、掌でたたきながら踊ったり、スティックで乱打したりする。腕の力を抜き、腰から出るエネルギーで叩く気持ち。

長い午前中が過ぎ、昼食の後はいよいよ、ゲストの坪井先生の出現である。ものすごく背が高くて色の浅黒いアシスタントの方を従え、フッと出現したのだ。

坪井先生が考案（発見）した『気流法』とは、様々な武術や思想、心理学、哲学の集大成から生まれた心身のトレーニング方法である。数多くのトレーニングのうち、このサマーキャンプに合うようにと３つのポイントを教えてくださった。

①リラックス――――体をリラックスさせることによってエネルギーを集中させる。そして、より多くリラックスするために緊張をする。方法として『垂直気流』というものがある。人間の体の80%だかは水分で、これを水と考え、これに自分の体を委ねるイメージを持つ。すると体が自然に前後左右に少しずつ揺れてくる。ユラユラ揺れる体のまま、両足を肩幅に広げて真下に向って脱力する（しゃがむ）。下まで行き着いたら頭から吊り上げられるつもりで立ち上がる。もうひとつ、体中の力を抜いて、木魚の小気味良いリズムに合わせて跳びまわって休息する方法もある。体が床に吸い込まれてい

く感じで気持ち良く、サヌカイトの幻想的な響きの中で北野先生はイビキをかいて眠り込んでいた。

②気――――気の流れ、気のめぐり、気持ち……。あたり前にどこにでもあるエネルギーで皆が忘れてしまっているもの。体のどこに気持ちを集中させるか、を色々な例題で教えて下さった。例えば、前方に真直ぐ伸ばした腕を他の人が曲げるのは簡単だが、腕を伸ばしたうえに指先で遠くの方を指した腕を曲げるのはとても難しい。あたり前のようだが誰も気付かなかったことではないだろうか。

③呼吸――――リラックスを習得することによって呼吸を操ることも自由になってくる。息を吸うことは周囲のものを受け入れることであり（＝語りかけられる）、吐くことは周囲に対して行動することである（＝語りかける）。両方のバランスを保って少しずつ深い呼吸にしていくと良い。

フツーのオジサンと忍者が同居しているような坪井先生の講義は、心の底から納得している人、催眠術みたいだと思っている人、もう一歩踏み込めずボーっとしている人と反応さまざま。

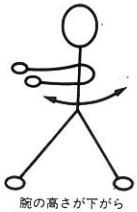
第３日目（７月30日）

夢から醒めたように有賀先生のレッスンが再開される。

両足を大きく広げて立ち、両腕一緒に肩の高さで左右に振る。振るというより置く感覚で。（図４）大きな左右の振りを２等分、３等分と分けていくと自然に８分音符や３連符が出来上がる。

その後、リズムの組み合わせのアンサンブルに入り、曲にとりかかる。

〈図４〉



腕の高さが下がらないように注意

第４日目（７月31日）

朝は、先ず皆で車座になり、バンドピープル誌の取材に来てくださった大沢氏のお話を聞く。これがリズムの話でも太鼓及び楽器の起源の話でもなく何と原子力発電のこと。日本各地に約60基も原子炉を持つ日本の危険性を淡々と語ってくれた。人間は文明の発達によって自然のリズムを狂わせているのだから、やはりリズムの話というところだろうか。

狐につままれたようなまま昨日のアンサンブル作り。新しく２曲、そして渡辺加津子さんの編曲によるバルトークのミクロコスモスも加え、有賀先生や藤本先生のアドバイスを受けながら序々に曲が完成してゆく。

ひょんなことから、そしてこれはサマーキャンプ始まって以来初めてだと思うが、有賀先生がティンパニとシンバルの奏法というよりは良い音の出し方を皆に教えてくださった。

夕方は恒例の河口湖の舟遊びと帰って来てからはバーベキュー。仕事の都合で先に帰られた北野先生もわざわざ来て下さり、夜中まで民宿の庭や部屋の中に活気がみなぎっていた。

最終日（８月１日）

カレンダーが変わるこの日は、ここ数年キャンプ最終日。９時30分から１時間程昨日の曲のおさらいをして、11時ミニコンサート開始。リズムを取ることが出来なかった人がきちんと譜面通り演奏していること、たった５日で仲間になった皆がカウントをとり合いながらアンサンブルをすること、いつものことではあるけれど、いつも感動してしまうのがこのコンサートである。今年はアンコールとしてサンバの曲を初見で加え、大満足。楽しい思い出をかかえて東へ西へ、さようなら！

●サマーキャンプ演奏曲

ANTIPHONE（10players）
A Time For Jazz（8players）
Tom-tom Foolrey（4players）
What?（5players）
Merry Andrew
Six Dances in Bulgarian Rhythm ～No.6
Chords Togather and Oppsed
（以上３曲「ミクロコスモス」より）

●参加者の感想文より●

今回初めて参加させて頂きました。ピアノ等でも夏期の講習会は方々で行われているのですが、僕が求めているものといつでも異っていて、いつもがっかりして帰ってきました。今、ピアノ、ヴァイオリン等結構多くの人がやっていますが、特に日本では、本来の意味が失われて、僕にはMusicの中でもかなり特殊なものになってきている様な気がします。学校のピアノの先生も全然○○○であるというような気がします。

日本で現在までされてきた教育や音楽等の作り方等は、ある大きさの四角い箱にある程度形と大きさのきまったつみ木をうまくおさまる様に入れてきただけの様な気がします。たしかにそれも重要な事だと思うのですが、僕が求めていたものは、その箱から飛び出す音であり、泉の様にわき出してくる音というものでした。（実は有賀先生にピアノを聞いていただいて、初めてそうだった事に気付いたのですが）

有賀先生については、本当に素晴しい（生徒である僕が先生を評価するのもおかしな話ですが）先生だと思いました。片岡殿（友人）にそういった話は聞いていたし、想像の中では大変な先生だとは思っていたのですが、実感としてそう感じられた時は、本当に「うれしかった」を通りすぎて、ある意味での恐怖を感じました……というより、何ともいえない……大声で走り回りたくなる様な……ああ、この先生だ!!と思いました。

今回、この５日間で僕の得たものは、本当に、今までの延長でやってきたら10年かかっても手に入るか入らないか位重大かつ、重要かつ、大変にきちょうな事だったと実感しています。例えば楽器や音楽に対する意識等は僕の中で大きく変わったと思うし、音楽に対する向かい方も変わってくると思います。試験の為の勉強なんて本当に小さいもののように思われます。

こういった講習会で有賀先生に出会った事は僕にとって大変な収穫だったと思います。また、機会があればぜひぜひもっとたくさんの事を教えて頂きたいと思います。いえ、近い将来実現する様に僕も機会を作ったり、求めたりしていきたいと思います。色々なゲストの先生もその世界感には同感したり驚いたりする事が多かったです。来年は僕も高校３年生になるのですが、ぜひとも又参加したいと思います。

有賀先生をはじめ、スタッフのみなさん、本当にありがとうございました。

白石英統（高校２年）

STEEVE SMITH CLINIC

＝スティーヴ・スミス公開クリニック！＝

昨年ステップス・アヘッドで来日、ファン層をさらに広げた元ジャーニーのドラマー、スティーヴ・スミスが10月来日、コマキ楽器でのクリニックが実現！

10月19日(月) 6：00PM～（開場5：30PM）
プレイス24　イベントプレイスにて
一般2500円、JPC会員2000円
申込方法　電話予約
（ドラムシティ03-842-6044
又はジャパン・パーカッション・
センター03-845-3041へ

Music & Sound EXPO.

'87 楽器フェア

10/15(木)　16(金)　17(土)　18(日)
10：00～5：00　（15日のみ1：00より）
ホテルグランドパレス3F（九段下）
科学技術館（北ノ丸公園）
入場料＝500円　前売400円
主催＝楽器フェア協会

よ・う・こ・そ・楽器ランド。

ソナー（西ドイツ）、㈱コマキ楽器はホテルグランドパレス3Fに展示いたします。

☆10月17日(土)15：00～16：00

「スティーブ・スミス・ミニ・コンサート」

提供：コマキ楽器
会場：科学技術館地下ホール

新入荷ご案内

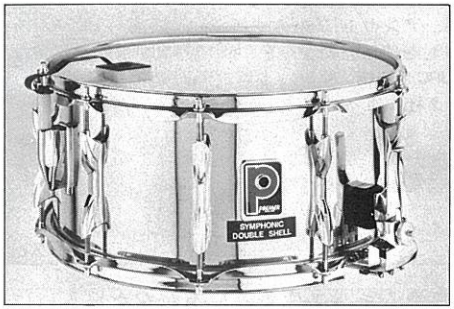
●FROM PREMIER

①9インチ超深胴スネアHEAVY ROCK NINE
＃2029(14"×9")　¥112,000

遂に出ました9インチスネア！　ブラス・シェルの内側にバーチ材を張ることによって、甘くなりがちな音を張りのある音にカバーしている。ヘビー・ロック・ナインなんていうけれど、クラシック畑でも使えそう。

③ダブル・シェル・スネアドラム（14"×6½"）
PROFESSIONAL SYMPHONIC＃2026　¥104,000

ドラムセットでお名染みのリゾネイターシリーズから新発売のシンフォニックタイプ。二重構造のブラス・シェル、タイトなワイヤー・ワウンド・スナッピー。



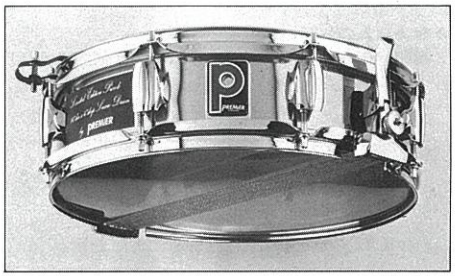
●FROM GC MUSIC

①PATTERNS Vol.Ⅳ　¥2,900

待望のクリニックを開いてくれるスティーヴ・スミスが使った教則本、パターンズの第4巻新発売。より高度な技術へのスティックワークを満載。

②ピッコロスネアドラム＃2024（14"×4"）
¥58,000

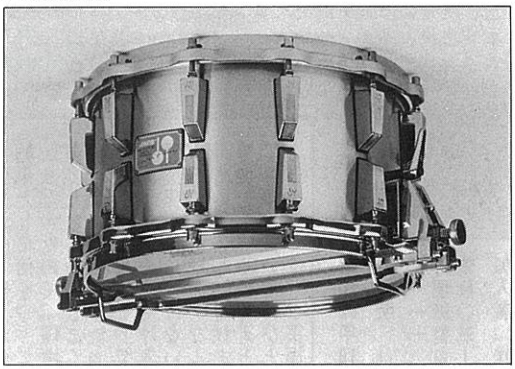
こちらは、ようやく出ましたピッコロスネア。アルミニウムのシェルで出来ているためか、14インチとは思えないキレの良い、いわゆる皆が求めていた〝ピッコロ〟の音がする。セット・アップに組み込む人、ラディックのピッコロスネアの再来を待ち望んでいた人、一度お試しあれ！



●FROM SONOR

①スネアドラムHLD-590（14"×8"）　¥288,000

ソナーが高いモンだってことは知っているけれど、何もこんなに高くしなくても良いでしょうと言いたいHLD-590。何故なら、なんとこのスネア、シェルはモチロン、ラグ、ボルト、全てのパーツがブロンズ製！　サウンドは、高いだけあって(？)威風堂々としている。が出しゃばるようなカンカンした音ではなく、上品にまとまった音がする。カラーでお見せできないのが残念。



猪俣猛の世界　Part 3

10月5日(月)6：30PM～
ヤクルトホール
前売¥3000　当日¥3500
(全自由席)

藤井むつ子
マリンバリサイタル

石と木に挑む―石井真木との出会い
10月10日(土)6：30PM～
石橋メモリアルホール
一般¥3,000　学生¥2,500

JPCリオブランコ演奏賞！

「JPCトピックス」で参加を募った浅草サンバカーニバル。血と汗と涙の結晶で迎えた8月29日、私達JPCリオブランコ総勢50名は見事演奏賞を受賞しました！　燃え上がった心を抑えきれず、来年は2位入賞を狙って定期練習を行うことになりました！　詳細はジャパン・パーカッション・センターへお問い合せください（03-845-3041）。

◀JPCだより▶

●会費納入のお願い

昭和62年分会費未納の方は、お早めに同封の振込用紙にて払い込みください。

なお、行き違いお振込の場合はご容赦ください。

●コマキ楽器休業のお知らせ

10月22日～23日の両日、社員旅行のためコマキ楽器は休業させていただきます。

志賀高原音楽祭　8月15日～8月18日　志賀高原に於て

8月15日～8月18日　志賀高原に於て志賀高原音楽祭が開催されました。一般大学の学生を中心に金管楽器と打楽器セクションのフェスティバルで、それぞれ多彩な講師陣によるクリニックを中心に、楽譜や楽器の展示販売、講師陣によるコンサートや、受講生による発表コンサート等々、盛りだくさんの内容でありました。

打楽器はティンパニ、鍵盤、小物打楽器、アンサンブル、基礎クラスの5つのクラスがあり、受講生は小人数のグループレッスンになり、すべてのクラスを受講できる様になっており、進行はすべて学生の自主運営です。講師陣は、読響の野口力氏を始め、都響の定成誠一郎氏、国立音大講師の上野信一氏、読響の市岡史郎氏、コンセルヴァトアール尚美講師の松倉利之氏、東京マリンババンドの山口多嘉子氏、という顔ぶれ。各クラス共にマレットの選び方から、各自の現在練習中の曲についてのアドバイスに至るまで巾広い内容でした。

鍵盤クラスでは、レッスン時間以外でも山口先生は空時間はいつでもレッスンに応じるという盛り上がりを見せ、小物打楽器の市岡先生はカスタネットの奏法についてかなり熱心にレッスンされた様です。また基礎クラスでは松倉先生が、SDを中心にマラカス等を用いてユニークなレッスンを展開、ティンパニはタイプの違う2人の先生のクラスをどちらか選択で受講、アンサンブルのクラスでは、S. LEONARD作曲の「CIRCUS」を使用、朝から夜中まで、なかなかハードな毎日でした。JPCも楽譜、マレット等展示販売で参加、バロックミュージック社によるマレット修理実演も、とても好評だった様です。

今年4年目を迎え受講生は打楽器だけで40人を超えとてもにぎやかに幕を閉じました。

編集後記

梅雨明け宣言が2度も発表されたせいか今夏の暑さも2倍、2倍。考え事をしているわけでもないのに夜は眠れず、100m全力疾走をしているわけでもないのに体中が汗にまみれ、分厚いステーキを思い描きつつザルソバに箸が向く……。クーラーは元より、扇風機すら設備されていない私の部屋は（別にボーナスが安いといっている訳ではない）蚊さえも近寄らないほどの蒸しようで、よく私自身耐え忍ぶことが出来たモンだと誉めてしまいます。夏の三重苦、不眠、食欲不振、夏バテ。もうすぐこの三打撃目がやって来そうです、2倍、2倍。皆さんも働き過ぎ、遊び過ぎによる夏バテを一刻も早く退治しましょう。美味い物を食べて良く眠ることです。しかしこれが度を越すと秋の○○地獄に直結してしまうんですねエ……。

ところで、悲しいお話を――。3年前のサマーキャンプの時ゲストでお迎えした三木茂夫先生が去る8月13日に急逝されました。有賀先生のお話や演奏を我が意を得たりとばかりに嬉しそうに聞き入っていたお顔、ある人に向かって「君はバケツ1杯の水を飲んで（3杯だったかも）体の中を洗わにゃいかん！」とおっしゃった悪戯っぽいお顔、生命のリズム、自然のリズム、そして胎児が母体の内で魚から人間に変化していく様を写真と共に語ってくださった姿、その時に何人かの女の子が流した涙。出来上がった会報を持ってお伺いした時でした。その時は何やかやと仕事が忙しく、仕事上の悩みもあり、結果として何をやってもマイナスの方向に向いてばかりだったので、「環境を変えようと思っています」と言ったところ、しごくあっさりと「あダメ。そういう時はネ、何をしたってダメなんですよ。ああ、こんなものなんだなって思っていれば、そのうち波も上向きになる。受け入れることですな。それから人間関係も変に広げないように。」とおっしゃいました。エ、これだけ？　なんて思ったけれど、富士山に登っていて苦しい時杖を渡されてホッとしたような気分でした。心の支えというよりは拠となる方でした。

今頃、藍い海のひと澪となって愉快に笑っていることでしょう。ご冥福をお祈りいたします。―M―

表紙

サマーキャンプ参加者たち
（前列中央：坪井先生）

昭和62年10月1日発行
発行所　J・P・C事務局
〒一一一　東京都台東区西浅草一―七―一
郵便振替口座　東京九―一五三一一五
電話〇三―八四五―三〇四一（代）
加入者（株）コマキ楽器